

亂暴されて、器物を傷められては大變だと思つて居るらしい。

俺は火にあたつて泰然としてゐた。

亭主は近所隣りを起して、村の駐在巡査が、亭主の變りにやつて來たのかも知れない。

俺のそばへ腰を下ろして、

「私の知つたのにも滿洲から歸つて來て、社會だとか主義だとか言つてゐる、あなたのやうに力の強い男が居る」とか色々話し掛けました。

俺は隙きを見せなかつた。

氣が付いて見ると此の家は豆腐屋なのだ。だから土間が廣い。四斗樽が轉がつてゐたり、大豆をヒク臼や、色んな豆腐を拵へる道具がある。

「早くしろ、めしを食はせれば俺は出て行く。俺の荷物を探して持つて來い、線路上に轉がつてゐる筈だが。」

俺は春子が此の近所にゐやしないかと思つて、春子の事も饒舌つたかも知れない。

二三人の女房連中がやつて來て、水を汲み込んで變な恰好のヒキ臼で、豆をヒキ出した。